



9月1日(日)は防災の日です

防災の日(ぼうさいのひ)は、「政府、地方公共団体等関係諸機関をはじめ、広く国民が台風、高潮、津波、地震等の災害についての認識を深め、これに対処する心構えを準備する」として制定された啓発日です。また、「防災の日」を含む1週間を**防災週間**として、様々な国民運動が行われます。

9月1日を防災の日と定めたのは、1923年(大正12年)9月1日に発生した関東大震災にちなんだものです。また、例年8月31日・9月1日付近は、台風の襲来が多いとされる二百十日にあたり、「災害への備えを怠らないように」との戒めも込められています。

ちなみに、関東大震災では190万人が被災、10万5千人あまりが死亡あるいは行方不明になったと想定されます。死因は地震の揺れによる建物倒壊などの圧死があるものの、強風を伴った火災による死傷者が多くを占めました。



大村市総合防災訓練

日時: 9月29日(日)

9:00~12:00

場所: 陸上自衛隊大村駐屯地

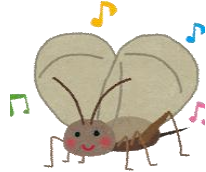
今年は、市内関係機関・組織が集っての防災訓練です。市民の皆様方の見学は可能です。

災害はいつ起きるかわかりません。ぜひ見学し、防災意識を高めましょう。



この期間に自主防災訓練を計画されている町内もあろうかと思えます。もしもに備えてぜひ参加しましょう。

9月の歳時記



9月は長月(ながつき)とよばれます。これは、日増しに夜が長くなるので「夜長月」とよばれたのが、「長月」になったといわれています。

9月8日 白露(はくろ)

処暑から数えて15日目頃。この日から仲秋になります。草の葉に白い露が結ぶという意味で、夜の間に大気が冷え込み、草花に朝露が宿ることから名づけられたと考えられます。日中はまだ暑さが残りますが、朝夕の涼しさの中に肌寒さを感じ始めます。

9月9日 重陽(ちょうよう)の節句

「九」という陽の数が重なることから重陽(ちょうよう)といえます。昔、中国では奇数を陽の数とし、陽の中で一番大きい数である「9」が重なる9月9日は大変めでたい日とされ、菊の香りを移した菊酒を飲んだりして邪気を払い長命を願うという風習がありました。

日本には平安時代の初めに伝わり、宮中では観菊の宴が催されました。



9月13日 十五夜(じゅうごや)



旧暦の8月15日は新暦では9月の中旬となり、2019年は9月13日が十五夜です。

お月見、名月、中秋の名月、芋名月とも呼ばれます。中国では、唐の時代から中秋の名月を鑑賞する風習がありました。日本では平安時代の貴族の間に取り入れられ、次第に武士や町民に広まりました。昔は、月の満ち欠けにより月日を知り、農事を行いました。十五夜の満月の夜は祭儀の行われる大切な節目でもあったようです。

満月に見立てたお団子と魔除けの力があるといわれるすすきをお供えます。

9月16日 敬老の日(けいろうのひ)

多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う日。元々は1954年に「としよりの日」という名前で制定されましたが、1964年に「敬老の日」に改められ、2003年からはハッピーマンデーの一環で9月の第3月曜日になりました。



9月23日 秋分(しゅうぶん)

秋分とは、太陽が黄径180度(秋分点)を通過するときのこと。春分と同じく、太陽が真東から昇って真西に沈み、昼と夜の長さがほぼ同じになります。極楽浄土があるという真西に太陽が沈むことから、亡くなった人をしのぶ日とされています。